

課題名：レジオネラ肺炎におけるラスクフロキサシン静注の有効性と安全性に
関する臨床的検討

◆研究の目的と概要◆

当院では、レジオネラ肺炎で入院し、通常診療としてラスクフロキサシン静注（LSFX 静注）による治療を受けた患者さんの診療経過を調べています。本研究では、LSFX 静注で治療されたレジオネラ肺炎の臨床経過、画像所見の推移、臨床安定化までの期間、有害事象、入院期間、退院時転帰などを明らかにし、今後のよりよいレジオネラ肺炎診療に役立てることを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

2021 年 11 月から 2023 年 11 月までの間に、倉敷中央病院 呼吸器内科 に市中肺炎として入院し、レジオネラ肺炎と診断され、初期の抗レジオネラ活性を有する抗菌薬として LSFX 静注を投与された 18 歳以上の方。

◆研究に使用される情報・試料◆

本研究では、通常診療で得られた以下の診療情報を使用します。新たな検査や治療、採血、試料採取は行いません。

- ・年齢、性別、喫煙歴、基礎疾患、既往歴、入退院日
- ・入院時の症状・身体所見（体温、血圧、脈拍、呼吸数、意識状態、酸素投与量など）
- ・血液検査、生化学検査、血液ガス検査など診療上実施された検査結果
- ・レジオネラ尿中抗原検査、喀痰培養、レジオネラ菌の遺伝子検査、血液培養などの微生物検査結果
- ・胸部 X 線、胸部 CT の画像所見およびその経時的変化
- ・抗菌薬治療内容、ICU 入室、人工呼吸器使用、昇圧薬使用
- ・解熱までの日数、臨床安定化までの日数、入院期間、退院時転帰、30 日死亡、有害事象

◆試料・情報の研究利用開始日◆

2026 年 8 月 1 日

◆研究方法◆

本研究は、電子カルテ等に記録された既存の診療情報を用いる後ろ向き観察研究です。対象となる患者さんの診療情報を収集し、患者さんを直接特定できる氏名、住所、電話番号、カルテ ID などを解析用データには含めない形で、LSFX 静注治療後の臨床経過、安全性、転帰を集計・解

析します。研究のために追加の診察、検査、治療をお願いすることはありません。
本研究は倉敷中央病院単独で実施し、試料・情報を第三者へ提供することはありません。

- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
- * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承ください。以下、解析中または、既に学会等で発表されたデータについては、削除できないことがありますことをご了承ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

呼吸器内科 研究責任者 伊藤 明広

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp（臨床研究センター）

（★を@に変換して使用してください）

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって当該既存試料を用いなければ研究の実施が困難であるとの理由が認められ、倫理的観点及び科学的観点から実施についての承認、また当院院長の許可が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- ・研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法
（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- ・研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- ・研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- ・研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明